

ANOR Newsletter from Indonesia

01. インドネシアの首都、ジャカルタは一日当たり 25,600 リューベの都市ゴミを発生させており、その内、34.9%が非有機性で、65.1%が有機性である。
約17%の3,100 リューベがコンポストに使用されている。
市民人口は増加し続けており、この増加に併せて、ゴミの量も毎年、増加している。
都市ゴミからの電力発電が、ジャカルタ南部へ車で約1時間のボゴールのボジョン村でなされている。
このゴミ発電プロジェクトは始め、取り上げ方に問題があり、地域社会からの強い反対で延期されて来た。

02. ジャカルタ市で聞かれる、種類のラジオ番組から、ゴミ管理及び処理へ更に関心を払う様にとの、地域社会の努力が聞かれる様になって来た。
彼等は、良く知られる様になった“Green Cities と Green Communities GCGC”をモットーにしている。
小売チェーンの大手のカルフルは、消費者より、非有機性並びに有機性廃棄物の購入を始めた。消費者は引き換えに、同店で、商品の購入に使用出来る引換券・クーポンを貰う事になる。

03. 現在、ジャカルタとバンドン市周辺で、都市ゴミから、コンポストを生産している98以上の、NGOを含むグループ、個人がいる。
ボゴール市から33キロのガルーガ村には、PT ガルーガと言う大きな、コンポスト民間会社がある。
又、最近、インドネシア廃棄物協会が設立された。

04. 有機性廃棄物のリサイクルに対する関心は、椰子油、サトウキビの様な農園でも強まって来ている。
農園の廃棄物は、コンポストによる肥料、又ボイラーの燃料として、利用されて来た。
その様な活動は、ジャカルタの東方、車で2時間のサトウキビ農園である、PTラジャワリで見ることが出来る。

05. 今年の10月初めより、油の国際価格の高騰により、政府は油の補助金の削減に追い込まれ、民衆の反発を受けている。
この削減で、国内の油の価格は、低所得者の照明用又調理用として、基本的な燃料である、軽油を含め大幅に上がった。
例えば、軽油の価格は、700 IDR から2,000 IDR に上がったが僻地では、3,

000 IDRにも達している。

この問題を解決する為に、政府は、代替エネルギーの推進を、大統領令で命ずる様、動いている。

この努力は、都市ゴミ及び他の有機性廃棄物利用による発電、熱利用を推進する事になり、補助金付きの石油利用による電力との競争が、激しくなると思われる。